

平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

小学校 社会科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	小学校社会科の目標	2
4	小学校社会科における評価の観点及びその趣旨	2
5	小学校社会科における学習評価の進め方	3
6	小学校社会科における学習評価の事例	9
7	Q & A	20

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠と言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

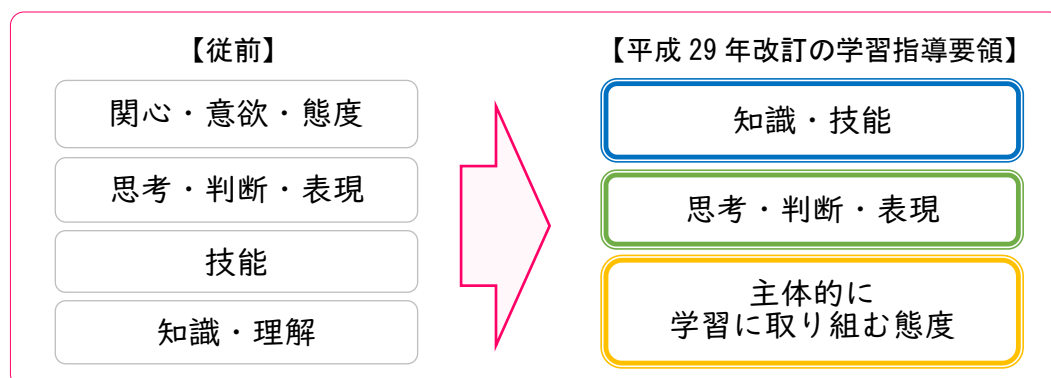
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



3 小学校社会科の目標

学習指導要領において、全ての教科の目標は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。小学校社会科の目標は、次のとおりです。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

思考力、判断力、
表現力等

(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

学びに向かう力、
人間性等 ※

各学年の目標は、学習指導要領でご確認ください。

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

4 小学校社会科における評価の観点及びその趣旨

評価の観点は、全教科領域、全学年共通ですが、評価の観点の趣旨は学年ごとに異なります。小学校社会科における評価の観点及びその趣旨は、次のとおりです。

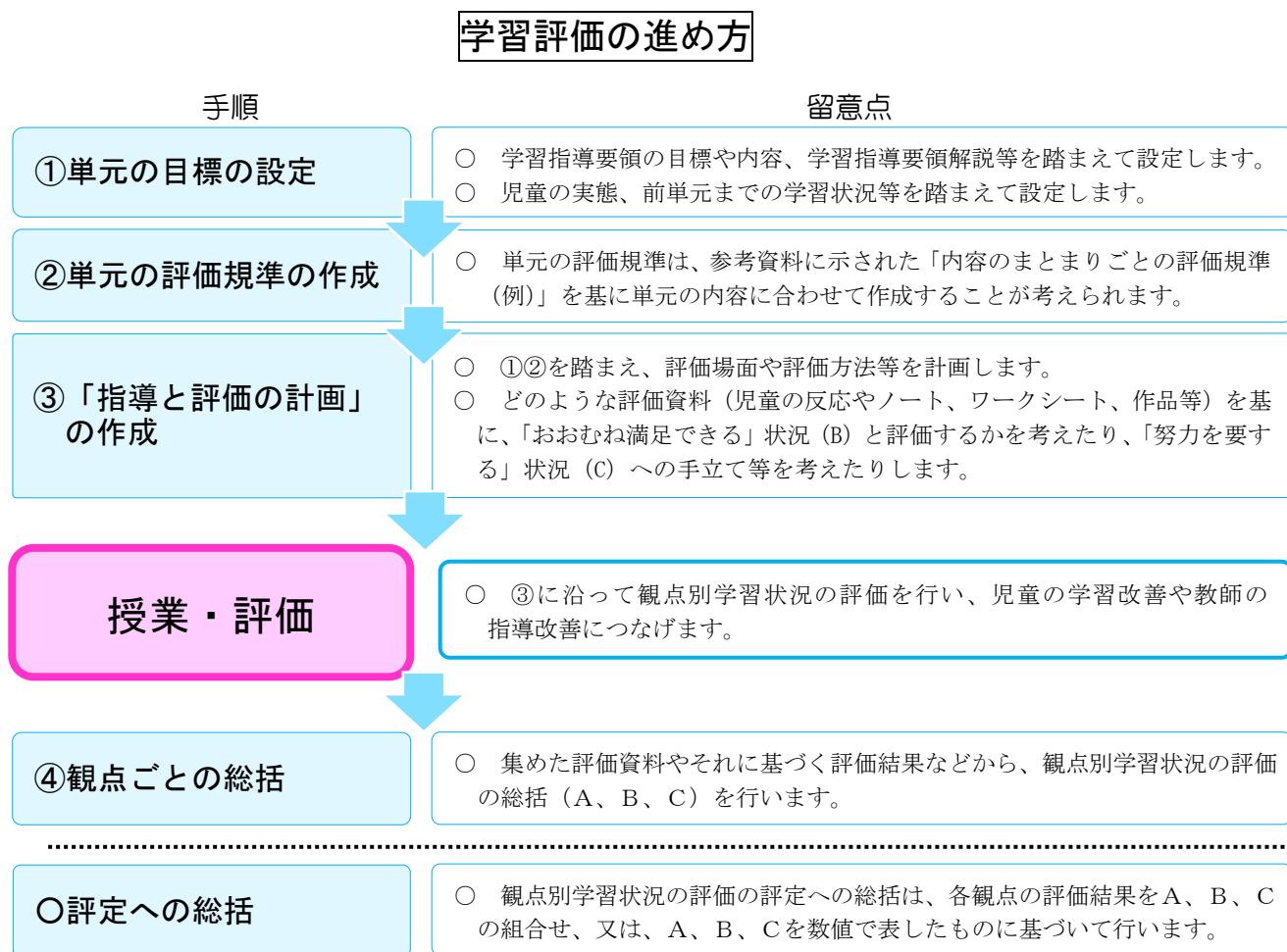
評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

観点別学習状況の評価を行う際は、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。

5 小学校社会科における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価の進め方（手順）は、基本的に次のような流れになります。観点別学習状況の評価を行う際は、下の進め方（手順）の前に、まず、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。



次ページから、上記の**学習評価の進め方**①～④の具体的な方法や内容について説明していきます。



①単元の目標の設定

②単元の評価規準の作成

ここでは、内容のまとめ「グローバル化する世界と日本の役割」の中の単元「世界の未来と日本の役割」を例にとって、**単元の目標**と**単元の評価規準**の作成方法を示します。学習指導要領に示されている「内容」の**A～G**の文言が単元の目標、評価規準にも反映されるよう置き換えます。

第6学年 「グローバル化する世界と日本の役割」の内容

(1) A グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(イ) B 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために、援助や協力を行ったりしていることを理解すること。
(ウ) C 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。 ※(ア)は、別単元のため省略
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(イ) E 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、 F 国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、 G 国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。 ※(ア)は、別単元のため省略

単元の目標

A グローバル化する世界と日本の役割について、 E 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、 C 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、 D 図や文にまとめることで F 国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、 G 国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、 B 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために、援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習 問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとする 態度を養う。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① E 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、 C 地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、 F 国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。【知-①】	① E 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見出し、 F 国際連合の働きや我が国の国際協力の様子について表現している。【思-①】	① A グローバル化する世界と日本の役割について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。【態-①】
② 調べたことを D 図や文にまとめ、 B 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために、援助や協力を行ったりしていることを理解している。【知-②】	② 地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子とを関連付けて、 G 国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現している。【思-②】	② 学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとしている。【態-②】

【単元の目標の設定と評価規準の作成方法】

前ページの例のように、単元の目標と評価規準は、学習指導要領に示されている「内容」の記述形式を基に作成することができます。

※「内容のまとめり」ごとの評価規準については、全学年分が「参考資料」の巻末資料（p.77～）に掲載されています。単元の目標や評価規準を作成する場合においても参考にしてください。

(1) A について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること
（ア） B を理解すること
（イ） C などで調べて、 D などにまとめること
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること
（ア） E などに着目して、 F を捉え、 G を考え、表現すること



単元の目標

Aについて、**E**などに着目して、**C**などで調べ、**D**などにまとめ、**F**を捉え、**G**を考え、表現することを通して、**B**を理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度やよりよい社会を考えようとする態度を養う。



単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① E などについて C などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、 F を理解している。 【知-①】	① E などに着目して、問いを見だし、 F について考え表現している。 【思-①】	① A （に関する事項）について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 【態-①】
② 調べたことを D などにまとめ、 B を理解している。 【知-②】	② ○と○を（比較・関連付け、総合など）して G を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。 【思-②】	② よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 【態-②】

単元の評価規準作成を行う上での留意点

【知識・技能】

- ・基本的には、知識と技能を関連付けて「～を調べ、～まとめ、～理解している」などと捉えて、作成する。
- ・学習過程に沿って、①「調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか」②「調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか」という学習状況を捉えるように作成する。
- ・評価場面によっては、知識を中心に学習状況を捉える場面や、技能を中心に学習状況を捉える場面があり得る。

【思考・判断・表現】

- ・学習過程に沿って、①「～に着目して、問いを見だし、～考え表現する」という「追究場面」における評価と、②「～比較・関連付け、総合などして～考えたり、学習したことを基にして、選択・判断したりして表現する」という「解決場面」における評価について作成する。
- ・単元によっては、②の「選択・判断する」場面を設定しない場合も考えられる。その場合はその部分を外すなど、単元の学習活動に応じて適切な文言を選んで作成する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・学習過程に沿って、①「社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか」②「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか」という学習状況を捉えるように作成する。
- ・単元によっては、①の「見直す場面」を設定せず、新たな問いを見出したり、追究したりする活動を行わない場合もある。よって、その場合はその部分を外すなど、単元の学習活動に応じて適切な文言を選んで作成する。
- ・単元によっては、②の「よりよい社会を考える」場面を設定しない場合も考えられる。その場合はその部分を外すなど、単元の学習活動に応じて適切な文言を選んで作成する。

③「指導と評価の計画」の作成

指導と評価の計画の作成の手順は、以下のとおりです（資料1参照）。

①単元を設計し、各時間の評価を行う観点及び評価する場面を決める。

小学校社会科においては、学習問題を追究・解決する活動、すなわち「問題解決的な学習」過程を充実することが大切であることから、「課題把握→課題追究→課題解決」の流れで単元を設計します。その後、各時間において、重点的に評価する評価の観点及び評価規準と評価する場面を決めます。

②単元の評価の計画として、記録に残す評価と指導に生かす評価を計画する。

p.5の単元の評価規準を基に、記録に残す評価と指導に生かす評価を計画の中に適切に位置付けます。

○「記録に残す評価」（**記録**）では、児童がノートやワークシートなどに書いたものを評価します。

評価は以下の3段階で行います。

A…「十分満足できる」状況 B…「おおむね満足できる」状況 C…「努力を要する」状況

○「指導に生かす記録」（**指導**）では、評価が（B）に満たない児童を支援するために、授業中に行います。基本的に毎時間行います。（C）と判断した児童への指導や支援を行うことを重視し、可能な限り、全ての児童が（B）となるように努めます。

	時間	主な学習活動（例）	評価の 重点	【評価規準（例）】	【評価する場面（例）】
課題把握	1	①学習問題を設定する。 ○社会的事象と出会う。 ○気付きや疑問を出し合う。 ○学習問題を設定する。	記録	【思-①】	○問いを見いだす場面 ○学習問題を見いだす場面
	2	②問題解決の見通しをもつ。 ○予想する。 ○調べる方法を考える。 ○学習計画を考える。	記録	【思-①】 【態-①】	○予想や学習計画を考える場面 ○予想や学習計画を考える場面
課題追究	3	①予想や学習計画を基に調べる。 ○観察や見学、聞き取り調査を行う。	指導	【知-①】	○調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面
	4	○様々な資料から必要な情報を集めて読み取る	指導	【知-①】	○調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面
	5	○子供同士で伝え合う。	記録	【知-①】	○調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面
	6	②社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える。 ○調べた事実を基に考える。 ○多角的に考える。 ○子供同士で話し合う（議論）	指導	【知-①】 【思-①】	○調べた事実を基に話し合う場面 ○学習問題について話し合う場面 ○調べた事実を基に話し合う場面 ○学習問題について話し合う場面
課題解決	7	①調べたことや考えたことをまとめる ○学習問題について結論をまとめる。	記録	【思-①】 【知-②】	○学習問題について結論をまとめる場面 ○学習問題について結論をまとめる場面
新たな課題	8	①学習したことを振り返って考える。 ○自分の追究の仕方や学び方、結果を振り返る。 ○学習成果を学校外の他者に伝える。 ○新たな問いを見出したり、追究したりする。	記録	【態-②】 【思-②】	○単元を通じた自分の学び方を振り返ったり見直したりする場面 ○新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面

※ 資料1内【評価規準（例）】の2、6、7、8時目では2つの観点のどちらか1つを重点的に評価するなど、1単位時間内で全員の学習状況を見取ることができるよう無理のない指導と評価の計画を立てることが重要です。

資料1

授業・評価

実際の授業で評価する流れは、以下のようになります。

授業前

授業を行う前に、次の①から④を明確にしておくことが大切です。

- ①授業の概要：第6学年 単元「グローバル化する世界と日本の役割」の **課題追究** 場面で、国際社会の課題に対して、日本が行っている活動について調べる時間です。
- ②評価規準：国際社会の課題と日本が行っている国際協力の活動を関連付けて、日本が国際社会に果たしている役割について理解している。【知-①】
- ③評価方法：国際社会の課題に対して、日本が行っている活動を何のために、どのような方法で行っているかを理解できているか、ノートの記述内容から評価する。

④判定基準

十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) と判断した児童への支援
国際社会の課題に対して、日本が行っている国際協力の活動と国際協力全体の目的について記述している。	国際社会の課題に対して、日本が国際協力の様々な活動を行っていることやそれぞれの目的を記述している。	○国際社会の課題を確認させ、どのような活動をしているか資料を限定して示す。 ○どんな団体がどのような活動をしているかを資料から読み取らせる。

授業中

指導 「指導に生かす評価」を行います。

授業中のノート **下線部は支援後の記述**

日本はどのような国際協力の活動を行っているだろうか。

国際社会の課題

○紛争 ○環境問題 ○貧困

予想 食料を送る。

調べたこと

- ODA や NGO が活動している。
- NGO が子供たちに教育を行っている。
- 青年海外協力隊が、食料が不足している地域に農業の技術を伝えた。

評価場面

ノートの記述を確認して、このままでは授業終末に④判定基準の「おおむね満足できる状況 (B)」に到達することが困難だと判断した児童には、「**努力を要する状況 (C) と判断した児童への支援**」を行うことが大切です。

教科書や資料集などを基に、紛争や貧困、環境問題などの地球規模の課題に対して、**どのような活動を行っているかを具体的に記述させました。**

下線部は支援後の記述です。



授業後

記録 「記録に残す評価」を行います。

⑤ 評価の実際：ノート 「十分満足できる」状況 (A) と評価した例

まとめ 世界には、紛争や貧困、環境問題や食料問題があることを知りました。日本は、食料が不足している地域に農業の技術を伝えたり、地雷や不発弾の被害に合わないよう、子供たちに教育をしたりしていることが分かりました。発展途上国の人たちが平和に豊かな生活をできるようにしているのだと思いました。

ノートの記述内容を、④判定基準を基に評価します。ノートから、波線部の記述のように、発展途上国に対する**国際協力全体の目的についての記述**があるため、評価を (A) としました。



④観点ごとの総括

単元が終了したら、3観点それぞれの記録に残した評価の結果を基に、総括を行います。
単元における各観点の評価結果をまとめた例を資料2に示します。

	【評価規準】 [] 内数字は第〇時を示す。	L児	M児	N児
知識・技能	【知-①】[3]「国際連合の役割や我が国の国際連合の一員としての活動について理解している」			
	[4]「我が国は国際連合の一員として重要な役割を果たしていることを理解している」	A	B	B
	[5]「我が国はさまざまな分野で技術者を海外に派遣したり、国内に海外からの研修生を受け入れたりしていることを理解している」			
	【知-②】[6]「我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している」	A	B	A
	単元の総括的な評価	A	B	A
思考・判断・表現	【思-①】[1]「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いや学習問題を見いだしている。」	B	B	B
	【思-②】[7]「今後我が国が国際社会において果たすべき役割などを考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」	A	B	B
	単元の総括的な評価	A	B	B
主体的に学習に取り組む態度	【態-①】[2]「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている」	A	C	B
	【態-①】[3～6] 学習問題を解決するために、意欲的に調べている	↓	↓	↓
	【態-②】[8]「今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を考えようとしている」	A	B	A
	単元の総括的な評価	A	B	B

※ 資料2の空欄部分は、評価したことを記録に残すことを重視せず、児童の学習状況を見取り、指導に生かし、学習状況の改善や指導改善につなげた時間を意味しています。

資料2「観点ごとの総括の例」

「資料2『観点ごとの総括の例』の解説」

【知識・技能】 N児の評価は第4時では(B)ですが、第6時では(A)でした。継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であると捉え、単元後半に行った評価の結果を重視することにし、単元の総括的な評価を(A)としました。
【思考・判断・表現】 L児の評価は第1時では(B)ですが、第7時では(A)でした。【知識・技能】と同様に、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であると捉え、単元後半に行った評価の結果を重視することにし、単元の総括的な評価を(A)としました。
【主体的に学習に取り組む態度】 M児とN児は第2時と第8時でそれぞれ(C)→(B)、(B)→(A)でした。ただし、態度については、2つの態度「主体的に問題解決しようとする態度」(【態-①】)と「よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている」(【態-②】)について評価を行うので、第8時の評価結果を重視するのではなく、それぞれの態度を積極的に評価するという考えの下、(A)→(A)をA評価、(C)→(C)をC評価、それ以外はB評価としました。よって、L児は(A)→(A)であったため、単元の総括的な評価を(A)とし、M児とN児はどちらも評価を(B)としました。

6 小学校社会科における学習評価の事例

事例1 キーワード…中学年の事例

評価したことを**指導**に生かす / 「知識・技能」の評価
 評価したことを**記録**に残す / 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

1 単元名 「飲料水、電気、ガスを供給する事業」 第4学年

2 単元の目標

飲料水、電気、ガスを供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べ、白地図や図表、文などにまとめ、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を理解している。 【知-①】	供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子について考え表現している。 【思-①】	飲料水、電気、ガスを供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 【態-①】
調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 【知-②】	飲料水、電気、ガスの供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水、電気、ガスの供給のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水や節電など自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 【思-②】	学習したことを基に節水や節電などについて自分たちが協力できることを考えようとしている。 【態-②】

4 指導と評価の計画（10 時間）

評価の重点 **指導**…指導に生かす評価 **記録**…記録に残す評価

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	評価の重点	評価方法と【評価規準】
1	生活に使っている水がどこから送られ、どのようにきれいにされているかについて関心を持ち、学習問題をつくることができるようにする。	○生活に使っている水がどこから送られ、どのようにきれいにされているかについて関心を持ち、学習問題をつくる。	記録	ノートの記述内容から、「供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【思-①】
2	学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題について、予想し、調べることを明確にし、学習計画を立てる。	記録	ノートの記述内容から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態-①】 p.11 へ
3・4	浄水場が水をきれいにしている仕組みを理解できるようにする。	○浄水場が水をきれいにしている仕組みを見学・調査したり、資料で調べたりする。	指導 記録	ノートや見学カードの記述内容から「水をきれいにしている仕組みなどについて理解しているか」を評価する。 【知-①】 p.12 へ
5	きれいな水をつくるために浄水場で働く人々の工夫や努力を理解できるようにする。	○浄水場で働く人々の水をきれいにする工夫や努力について調べる。	指導	ノートの記述内容から「水を安全できれいにするための工夫や努力を理解しているか」を評価する。 【知-①】
6	ダム働きを理解できるようにする。	○ダムがどのような働きをしているか調べる。	指導	ノートの記述内容から「ダムの働きを理解しているか」を評価する。 【知-①】
7	森の働きを理解できるようにする。	○森がどのような働きをしているか調べる。	指導	ノートの記述内容から「森の働きを理解しているか」を評価する。 【知-①】
8	生活に使った水が、その後どうなるのかを理解できるようにする。	○生活に使った水が、その後どうなるのかを調べる。	指導	ノートの記述内容から「水の循環について理解しているか」を評価する。 【知-①】
9	調べたことを基に、学習問題について図や文にまとめることができるようにする。	○学習問題について調べたことや話し合ったことに基づいて、水をきれいにしている仕組みや経路、人々の協力関係などについて図や文にまとめる。	記録	ワークシートの記述内容から「飲料水を供給する事業が、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。 【知-②】
10	かぎりある水を使い続けるために、自分たちに協力できることは何かを考えようとする態度を養う。	○かぎりある水を使い続けるために自分ができることは何かを考え、発表する。 ○かぎりある水を使い続けるために、自分たちにできることをワークシートにまとめる。	記録	ワークシートの記述内容から「かぎりある水を使い続けるために、自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現しているか」を評価する。 【思-②】 ワークシートの記述内容や発言内容から「かぎりある水を使い続けるために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。 【態-②】 p.13 へ

5 各時間における評価方法

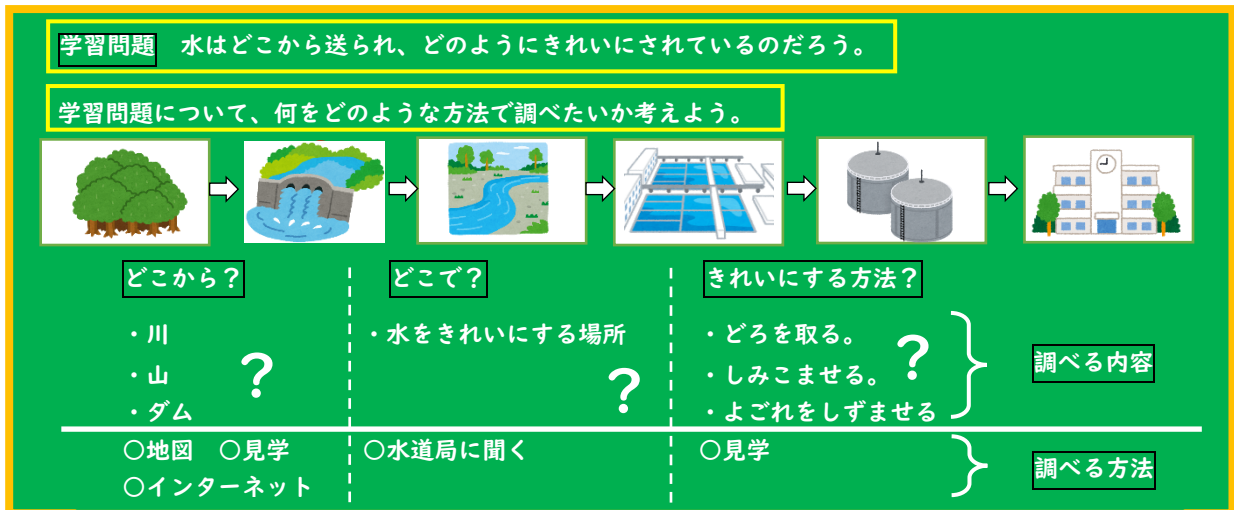
●第2時 課題把握場面において【態-①】を評価した例 (記録に残す評価)

①授業の概要

使っている水はどこから送られ、どのようにきれいにされているのかについて疑問をもたせ、予想させることを通して、今後調べる内容と方法について考える。

②評価規準

学習問題について予想したり、調べる内容と方法を明確にしたりして、学習計画を立てている。 【態-①】



③ 評価方法：学習問題について、予想し、調べる内容と方法を考えようとしているか、発言内容やノートの記述内容から評価しました。

④ 判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
学習問題について予想し、調べる内容と方法を複数記述している。	学習問題について予想し、調べる内容と方法を考え、記述している。	○前単元までの調べる活動を想起させ、どのような調べる内容と方法があったのかを思い出させる。 ○黒板に着目させ、調べる内容と方法を確認する。

⑤ 評価の実際：ノート ()内は友達の意見を参考 「おおむね満足できる」状況(B)と評価した例

○水はどこから来ているか？

予想：山 → ダム → 川 → 学校？

○どのようにきれいにしているか？

予想：どろを取る。

評価場面	
調べる内容	調べる方法
・どこから来ているか	・(地図)
・どこできれいにしているか	・図書の本
・(どのようにきれいにしているか)	・(見学)

【評価の留意点】

ノートの記述を基に評価する際は、友達の意見を参考にしたものには括弧を付けさせたり、別の色で書かせたりするなど、工夫が必要です。

【分析及び評価】

実際に追究可能な**調べる内容**と**調べる方法**を三組書くことができていますが、内二組は友達の意見を参考にしているため、複数記述できていないと判断し、評価を(B)としました。

●第3時 課題追究場面において【知-①】を評価した例（評価したことをその後の指導に生かす）

①授業の概要

教科書の「浄水場の仕組み」の図を読み取り、水をきれいにする仕組みとその働きについてノートに記述する。

②評価規準

浄水場が水をきれいにする仕組みについて理解している。

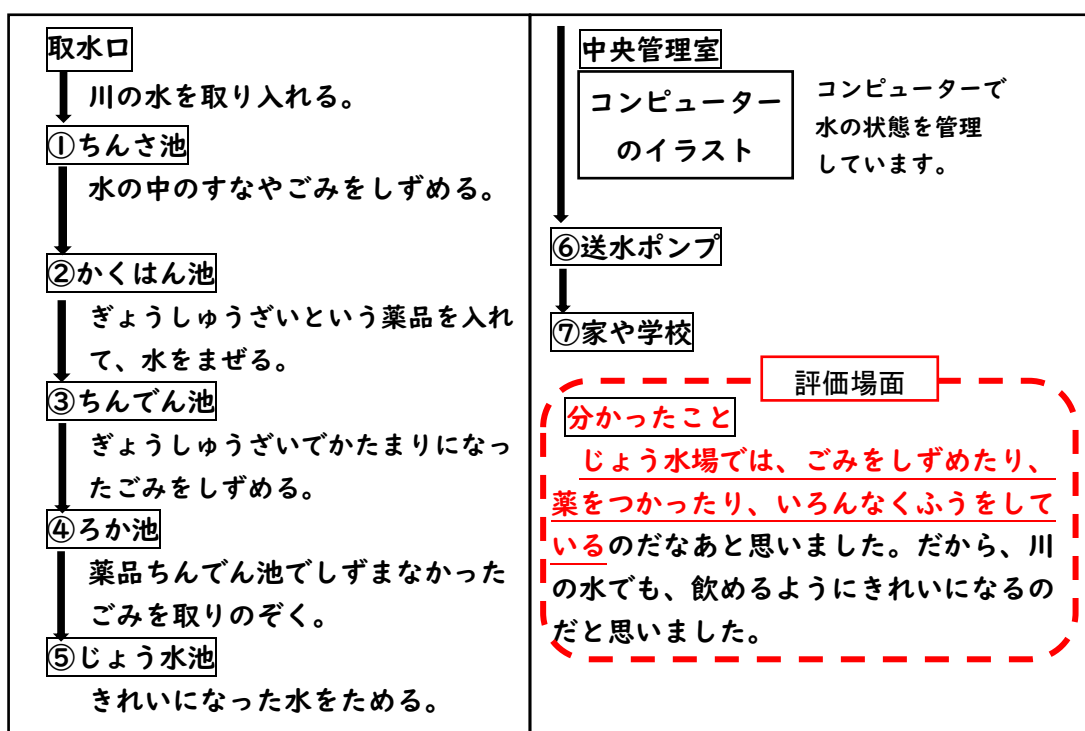
【知-①】

③ 評価方法：「浄水場の仕組み」の図から情報を読み取り、水をきれいにする仕組みについて理解しているか、ノートの記述内容から評価しました。

④ 判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
水をきれいにする仕組みについて読み取り、その仕組みについて目的を明確にして、まとめて記述している。	水をきれいにする仕組みについて読み取ったことを個別に記述している。	○どのように記述すればよいか、板書でモデルを示す。 ○水をきれいにする仕組み(ろ過池や浄水池など)を資料で確認させて、どのような順序で水をきれいになっているかを読み取らせる。

⑤ 評価の実際：ノート 「おおむね満足できる」状況(B)と評価した例



【分析及び評価】

水をきれいにする仕組みについて読み取ったことを基にして、「ごみをしずめる」「薬をつかう」など、個別に記述することができます【評価(B)】。



【評価の留意点】

本時の指導では、「ごみをしずめる」「薬をつかう」などが何のために行われているのかについて考えさせることが不十分だったため、仕組みを個別に記述する児童が多く見られました。

そのため、第5時の「浄水場で働く人々の工夫や努力について調べる」時間では、以下の手立てを取るようにします。

- その仕組みが何のために行われているか、目的を考えさせる。
- 学習のまとめを書かせる際に、黒板の「安全」や「安心」などのキーワードに着目させる。



●第10時 課題解決場面において【態-②】を評価した例 (記録に残す評価)

①授業の概要

前時に、学習問題「水はどこから送られ、どのようにきれいにされているか」について、図や文でまとめた。本時は、かぎりある水を使い続けるために自分が協力できることを考え、話し合う。

②評価規準

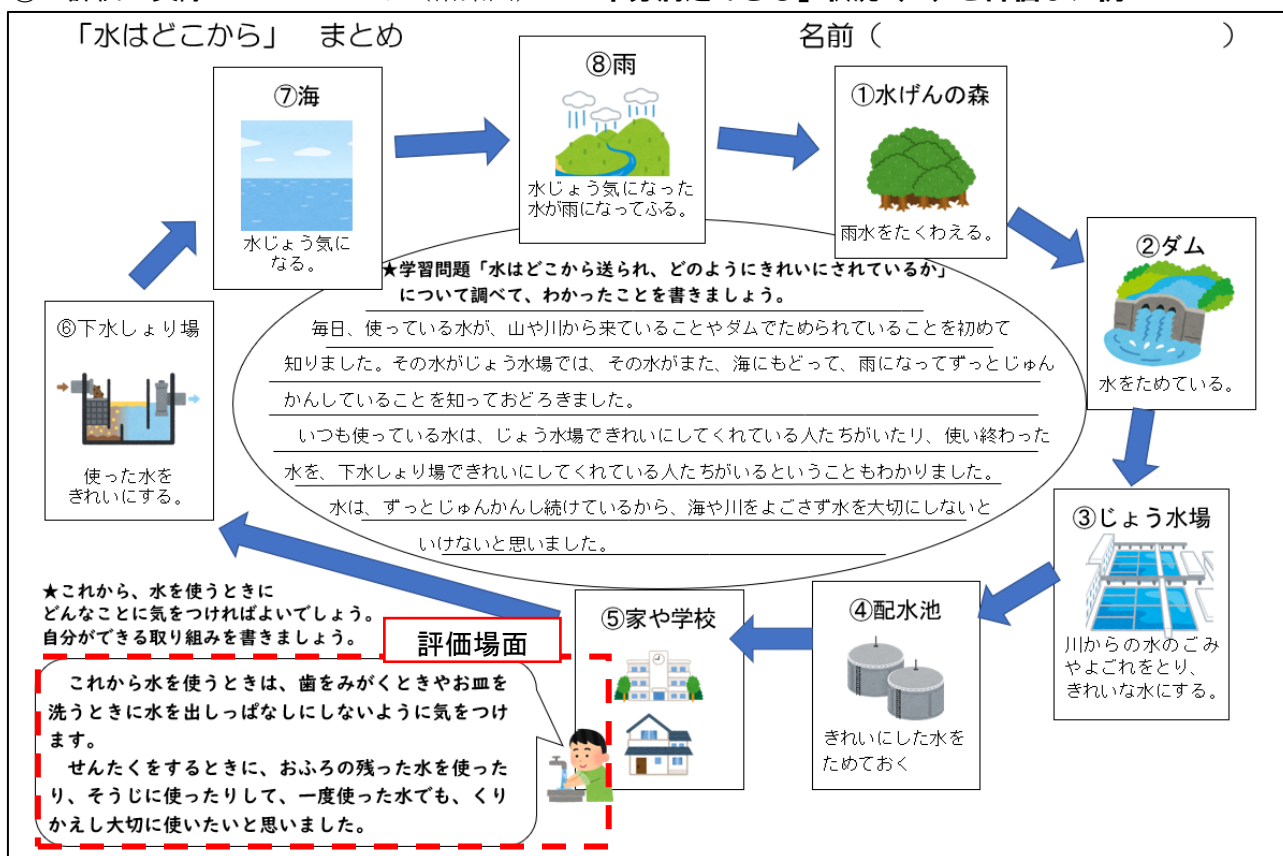
かぎりある水を使い続けるために、自分たちが協力できることを考えようとしている。【態-②】

③ 評価方法：安全できれいな水を使い続けるために自分が協力できることを考えようとしているか評価しました。また、具体的な取り組みを考え、記述できているかを評価しました。

④ 判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
かぎりある水を使い続けるために自分が協力できる取り組みを複数考えている。	かぎりある水を使い続けるために自分が協力できる取り組みを考えている。	○前時に作成した循環図を基に、水が送られる経路でどのような取り組みができそうかを考えさせる。 ○ペアやグループ内で相談し、友達の考えを参考にするように声掛けをする。

⑤ 評価の実際：ワークシート（循環図） 「十分満足できる」状況（A）と評価した例



【分析及び評価】

水を使うときに、これからどんな協力ができるかについて節水や再利用など、自分が協力できる取り組みが複数書かれているため、評価は(A)としました。

【評価の留意点】

ここでは、【態-②】で評価するため、本事例のように、「自分たちが協力できる取り組み」について書かせる必要があります。問いが評価の観点と合っていないと評価することが難しくなるため、ワークシート内の問いの工夫が必要です。

事例2 キーワード…高学年の事例

評価したことを**指導**に生かす / 「思考・判断・表現」の評価
 評価したことを**記録**に残す / 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価

1 単元名 「米づくりのさかんな地域」 第5学年

2 単元の目標

我が国の農業における食料生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、図や文などにまとめ、食料生産に関わる人々の働きを考え表現することを通して、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、これからの農業の発展について考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。【知-①】 - 調べたことを図や文などにまとめ、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。【知-②】	- 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、食料生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。【思-①】 - 食料生産と国民生活を関連付けて、食料生産が国民生活に果たす役割や食料生産に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業の発展について自分の考えをまとめたりして、適切に表現している。【思-②】	- 我が国の農業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。【態-①】 - 学習したことを基に消費者や生産者の立場などから、これからの農業の発展について考えようとしている。【態-②】

4 指導と評価の計画（8時間）

評価の重点 **指導**…指導に生かす評価 **記録**…記録に残す評価

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	評価の重点	評価方法と【評価規準】
1	農業の様子について関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○なぜ庄内平野では米づくりが盛んなのか、疑問をもたせることで学習問題をつくる。 ○庄内平野で、米づくりが盛んな理由について予想を出し合い、学習計画を立てる。	指導 記録	ノートの記述内容から、「生産方法や協力関係、技術の向上などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思-①】 p.16へ ノートの記述内容や発言内容から、「我が国の農業について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
2	米の生産地と自然条件との関わりを理解できるようにする。	○庄内平野の気候や地形などの特色について調べる。	指導	ノートの記述内容から、「庄内平野の気候や地形を理解しているか」を評価する。【知-①】
3	農家の工夫や努力について理解できるようにする。	○米づくりの生産工程を調べる。	指導	ワークシートの記述内容から、「米づくりの生産工程における農家の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知-①】
4	米づくりにおける技術の向上について理解できるようにする。	○米づくりの作業時間の変化や機械化や耕地整理などについて調べる。	指導	ノートの記述内容から、「米づくりにおける技術の向上について理解しているか」を評価する。【知-①】
5	品種改良を調べることを通して、農家を支えている人々の協力関係を理解できるようにする。	○農業協同組合（JA）や農業試験場などの農家を支える人々の協力関係を調べる。	指導	ノートの記述内容から、「農家を支える人々の協力関係について理解しているか」を評価する。【知-①】
6	消費地への輸送を調べることを通して、米づくりに掛かる費用を理解できるようにする。	○消費者までの輸送方法や米づくりに掛かる費用などについて調べる。	指導	ノートの記述内容から、「消費地までの輸送方法や米づくりに掛かる費用を理解しているか」を評価する。【知-①】
7	食料生産に関わる人々の工夫や努力が、食料生産を支えていることを理解できるようにする。	○学習問題を振り返らせ、よりよい米を作るために、農家が工夫や努力をしていることを、新聞にまとめる。	記録	新聞の記述内容から、「農家の人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。【知-②】 p.17へ
8	農家が抱える課題を調べることを通して、これからの農業の発展について考えようとする態度を養う。	○農家が抱える課題について調べる。 ○農家が抱える課題を解決する方法を考える。	指導 記録	ワークシートの記述内容や発言内容から、「これからの農業の発展について自分の考えをまとめ、適切に表現しているか」を評価する。【思-②】 p.18へ ワークシートの記述内容から、「消費者や生産者の立場などから、これからの農業の発展について考えようとしているか」を評価する。【態-②】

5 各時間における評価方法

●第1時 課題把握場面において【思-①】を評価した例（評価したことをその時間の指導に生かす）

①授業の概要

なぜ庄内平野では米づくりが盛んなのか、疑問をもたせることで学習問題をつくり、学習計画を立てる。

②評価規準

庄内平野の米づくりについて、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して問いを見いだしている。
【思-①】

米づくりについて学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

庄内平野の地図

耕地面積
庄内平野 86.7%
全国 45.6%

疑問（問い）

- ・広い田からどのように収穫するのか
- ・米づくりに山や川が関係あるのか
- ・工場のような建物は何だろう
- ・機械を使っているのか
- ・どのくらいの人に関わっているのか
- ・どうして田が長方形なのか
- ・なぜ庄内平野は米がたくさんとれるのか？

評価場面

学習計画

予想	調べる内容	調べる方法
・田が多い	→ 土地の特色	地図
・雨が多い	→ 気候の特色	雨温図
・機械で大量生産	→ 機械の種類	写真
・おいしい	→ 味の工夫	インターネット
・たくさん売る	→ 売る工夫	地図・グラフ

③評価方法：庄内平野の米づくりについて、様々な視点に着目して問いを見いだしているか、ノートの記述内容から評価しました。

④判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
複数の視点から問いを見だし、記述している。	1つの視点から問いを見だし、記述している。	○写真やグラフなどの資料を限定して示す。 ○米づくりに関することで、どのような疑問(問い)があるか個別に問い掛ける。



⑤評価の実際：ノート 努力を要する状況(C)→「おおむね満足できる」状況(B)と評価した例

米づくりについて学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

疑問（問い）

- ・どうして庄内平野は田が多いのかな。
- ・庄内平野では機械を使って米をつくっているのかな。

評価場面

学習問題

なぜ、庄内平野では米づくりがさかんなのか。

予想：機械を使って、たくさんつくっている。

【分析及び評価】

疑問(問い)を書いた児童のノートの評価しました。

その際、「生産の工程、人々の協力関係」などに着目した問いの記述がなく、このままでは、授業終末に(B)に到達しないと判断した児童に支援を行いました。

その結果、下線部のように「技術の向上」に着目して書くことができました[評価(B)]。

(C)と判断した児童には、以下のような指導を行います。

- 写真から、田の広さや形に注目させたり、グラフから庄内平野の耕地面積に注目させたりします。
- 米づくりに関して、どのような疑問があるか、個別に問い掛けます。



●第7時 課題解決場面において【知-②】を評価した例 (記録に残す評価)

①授業の概要

米づくりがさかんな地域や、よりよい米づくりのための農家の工夫や努力を新聞にまとめる。

②評価規準

農家の人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 【知-②】

③ 評価方法 食料生産に関わる人々が生産性や品質を高める努力や輸送方法や販売方法を工夫していることをワークシートにまとめているかを記述内容で評価しました。

④ 判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
生産性や品質を高める努力と輸送方法や販売方法の工夫の両方を記述している。	生産性や品質を高める努力と輸送方法や販売方法の工夫のどちらか1つを記述している。	○既習内容をノートの記述を基に振り返らせる。 ○新聞の作成過程で進行具合を確認し、次に記述する内容を確認する。

⑤評価の実際：新聞 「十分満足できる」状況(A)と評価した例

米づくりがさかんな庄内平野のひみつ！

理由1 気候や地形がよい！

- 川が流れていて、水が豊富。
- 広い平野が広がり、田が多い。
- 夏に温かくかわいた季節風がふく。
- 日照時間が長く、庄内平野は気候も地形も米づくりにぴったり！



理由2 技術がすごい！

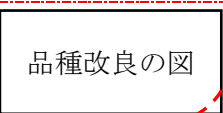
田植え機や稲刈り機など、機械化のおかげで、短い時間でたくさんとれるようになりました。

機械を使えるようになったのは、耕地整理で、田んぼが長方形になったおかげです。機械で農作業ができるようになったので、少ない人数でも作業することができます。

理由3 協力している！

農業協同組合（JA）や農業試験場で働く人たちと協力しています。

- 肥料をまく時期や水の管理は、話し合って決めています。
- 農業をまくヘリコプターやコンバイン等の機械は、お金を出し合っ、みんなで使っています。
- 農業試験場では、品種改良を行って品質のよいお米を開発しています。



品種改良の図

理由4 全国に届ける！

生産されたお米は全国に届けるために、トラック、鉄道、フェリーなどで運ばれます。最近はインターネットで注文して、宅配便で届ける方法もあります。

お店で売っているお米の代金には、機械の燃料代に加え、送料等も入っているのだと初めて知りました。

評価場面

輸送方法を示した地図

調べた感想 おいしいお米をたくさんつくるために、品種改良をしたり、機械や農業などを使ったりしているということが分かりました。農家はお年寄りの人が多くて、いろいろな工夫や努力をしているので、これからは、もっとお米を大切に食べたいと思いました。

【評価の留意点】

単元末に【知-②】の観点で評価するには、課題追究場面で調べた以下の4点を網羅するようにまとめさせよう。その際は、調べて分かったことだけでなく、考えて分かったことを記述しているかを見取ることが大切です。

- 1気候や地形の特色
- 2技術の向上
- 3人々の協力関係
- 4輸送と米の費用

【分析及び評価】

理由2・3・4の記述内容を基に、以下の2点で、評価しました。

- 生産性や品質を高めるための努力(下線部)
- 輸送方法や販売方法の工夫(波線部)

新聞には、両方の記述があるため、評価を(A)としました。

●第8時 課題解決場面において【思-②】を評価した例

(評価したことをその時間の指導に生かす、記録に残す評価)

①授業の概要

農家が抱える課題を調べ、解決策を考えるを通して、これからの農業の発展について考える。

②評価規準

これからの農業の発展について自分の考えをまとめて適切に表現している。【思-②】

③ 評価方法：農家が抱える課題を調べ、よりよい解決策とその理由を多角的に考え、表現しているか、ノートの記述内容から評価しました。

④ 判定基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)と判断した児童への支援
解決策と理由を複数の立場を基に考え、記述している。	解決策と理由を1つの立場を基に考え、記述している。	○農家が抱える課題を確認させ、調べる資料を限定して示す。 ○生産者や消費者など、どの立場にとってよい解決策なのか問い掛ける。

⑤ 評価の実際：ワークシート（L児）

指導に生かす評価

※話し合いの流れに沿って、ワークシートは以下の順序で記述しています。

自分の考えを決める → 理由を考える → 話し合い（相手の考えを聞き、メモを取る。反論を考える）
→ 話し合い後の自分の考えをまとめる

努力を要する状況(C) → 「おおむね満足できる状況(B)と評価した例

農家が抱える課題を解決するためによりよい解決策はどちらか？

自分の考え：米粉パンを販売する

理由

・パンの方が好きだから

評価場面

相手の考え：米粉パンを販売する

メモ（相手の理由）

理由を多角的に考え、記述することができていない児童に支援する。

ノートの記述を確認した際に、このままでは、授業終末に(B)に到達しないと判断した児童には、以下のような指導を行います。

- 農家の課題を確認させた上で、どの資料で調べるとよいか、資料を限定して示します。
- 生産者や消費者など、どの立場にとってよい解決策なのを問い掛けます。



支援後に児童が記述した理由

自分の考え：米粉パンを販売する

理由

・パンの方が好きだから

・米粉のパンにすることでつくったお米が余らないので、つくっている人にとってよいから

評価場面

話し合いでは、多角的に考えることができるように、以下のような支援を行います。

教科書〇ページに載っている、米粉のパンをつくればいいと思います。パンを食べる人が増えてきたけど、米粉のパンにすれば、お米が余らなくてよいと思います。



それよりも、インターネットで販売すると、全国の人に簡単に宣伝できて、全国の人がお客さんになるので今よりもたくさん売ることができると思います。



インターネットは見ない人がいるかもしれないけど、米粉のパンはふだん買い物をしているお店で売れば、たくさん買ってもらえると思います。



でも、米粉パンが売れると、今度は、小麦を育てている人が困るのではないですか。



今、生産者の立場からの意見がよく出ていますね。消費者の立場からの意見はありませんか。

お客さんの立場からは、インターネットの販売はお店に買いに行かなくていいので、車に乗らない人やお年寄りにはとても便利だと思います。



⑤ 評価の実際：ワークシート（M児）



「十分満足できる」状況(A)と評価した例

記録に残す評価

農家が抱える課題を解決するためによりよい解決策はどちらか？

自分の考え：インターネットでお米を販売する

理由

- ・全国のいろんな人に宣伝することができるから。
- ・いっぱい買ってもらえるから。
- ・車で買い物に行けない人やお年寄りが買いやすい。
- ・農林水産省の資料では、インターネットショップから買う人が増えているから。

相手の考え：米粉パンをつくって販売する

メモ（相手の考えの理由）

- ・米粉パンが評判になっているから
- ・米粉パンの生産量が増えてきているから

反論

- ・米粉パンが売れると小麦を育てている人が困る。
- ・米粉パンは値段が高いので買う人が困る。

話し合いが終わったあとの自分の考え

評価場面

米の消費量を増やすためには、インターネットで販売するとよいと思いました。そうすれば、全国のいろんな人に宣伝できて、たくさんのお客さんに売ることができるので消費量が増えると思います。お客さんにとってもお店に買いに行かなくてもいいので、車に乗らない人やお年寄りにとってもとても便利だと思います。

米粉パンをつくって販売するのがいいという考えについては、米粉パンが売れたら、今度は小麦を育てている人が困ると思いました。でも、花子さんが言ったように、給食で使われることになれば、困る人がいなくていい考えだと思いました。みんなでいろいろとアイデアを出せば、今よりももっとたくさん食べてもらえて消費量も増えると思います。そうすれば、農家が抱える課題も解決すると思いました。

【分析及び評価】波線部のように、解決策の理由を「生産者」や「消費者」など複数の立場から多角的に考え、記述することができています。このため、評価を(A)としました。



Q 1 ワークシートや新聞などにまとめさせた内容は、どのように評価すればよいですか。

A 社会科の学習では、学習問題について追究し、調べたり考えたりして分かったことを、ノートに記述させたり、関係図や新聞などにまとめさせるのが一般的です。

それらの記述内容を評価規準に照らして「知識・技能」の観点について評価します。事実的な知識にとどまらず、児童が自分なりの言葉で概念的な知識へと高めているかどうか（本当の意味で理解しているかどうか）、評価をすることが大切です。さらに、分かった結果を基に「自分たちに協力できること」「問題の解決に向けて社会全体としてやるべきこと」などを考えさせ、記述させた上で「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価をすることもできます。

また、最後のまとめたものだけで評価をするのではなく、まとめに至るまでの授業中のノートの記述なども評価資料に加え、最後にまとめた表現の評価を補うことも留意しましょう。

Q 2 見学して調べたことについては、どのように評価すればよいですか。

A まず、見学に行く前に、どのようなことを調べてくるのか、調べる内容を整理しておくことが大切です。その際、単元の「学習問題をつかむ」過程で見いだした問いの内容に基づいて、調べる内容と学習問題とのつながりを意識させておくことが必要でしょう。

評価の対象としては、見学中における見学先の方とのやり取りの様子、見学メモ、見学やインタビューで調べたことをまとめたノートやワークシートなどが考えられます。例えば、見学して分かったことを記述した見学メモの内容を読んで、必要な情報を集めることができているか、見学した内容を順番や事項ごとに整理するなど、具体的に理解することができているか、「知識・技能」の観点で評価します。見学後、更に調べたい内容を記述させることで、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で、評価をすることもできます。

Q 3 話し合いや討論などの活動については、どのように評価すればよいですか。

A 学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められており、「対話的な学び」の実現については、学習過程を通じた様々な場面で子供相互の話し合いや討論などの活動を積極的に取り入れる必要があります。対話的な活動における評価について、留意すべき点は、以下のとおりです。

- 子供の発言に耳を傾け、議論の途中であっても、教師が本時の目標に沿って、議論の方向付けを図るなど、適切に「指導に生かす評価」を行うこと
- 複数の立場に立って多角的に考えたり、他者の主張を踏まえて考えたりしているか見取ること
- 「記録に残す評価」においては、活動中の発言内容にとどまらず、活動終了後に再度自分の考えを記述させ、その記述内容を基に評価を行うこと

参考文献

- ・ 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 2020 年
- ・ 澤井 陽介 『社会科の授業デザイン』 2015 年 明治図書
- ・ 澤井 陽介 『授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』 2018 年 明治図書
- ・ 澤井 陽介 『小学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』 2018 年 明治図書